

地場産業振興支援研究報告書

2016.5.6

フリガナ 申請者名	やま 焼 やま 山 ひろ 廣 し 志	年齢 62 歳	所属 一般教育科
課題名	菅原道真研究～『菅家後集』所載の作品論と編纂事情考（注釈を通して）～ 【書籍出版】		
助成金額	100 千円		
共同研究者		年齢 歳	所属
共同研究者		年齢 歳	所属
研究概要	<p>地域連携の一環として継続している大牟田市民大学講座ゼミの受講者有志による菅原道真公の漢詩講読会（月 1 回）が今年で 10 年目に入った。平成 20 年度に立居場学校長の校長裁量経費の支援を受け、学習成果を一冊の書籍として公にすることが出来た。その書は大牟田市のみならず近隣の図書館・公共施設に寄贈し、有明高専の地域貢献の一端を証することが出来たと思う。その後この市民の有志による講読会は会員の変動はあったものの現在まで定期的に継続出来ている。一冊目を刊行後の 3 年間で、また新たな学習成果が生まれた。前回の続編として平成 23 年度にほぼ完成をみた原版のデータを基に平成 25 年 1 月に再度校長裁量経費の支援を受け、2 冊目の刊行が実現した。平成 26 年度は地域産業振興会より支援を受けて原稿データ（刊行物の出版原版データ）を整理収集する事が出来た。今年度は平成 26 年度に熊本大学より一連の論文で学位が授与された、この研究成果に大牟田市民との学習成果と合わせたものを集大成し、平成 27 年度中の出版を目指す。科研費等の外部資金の支援が望めない中、自費出版でも止むなしで出版に漕ぎ着けたい。そのために、その自費出版費用の一部の支援を要請する。</p>		
研究目的 (新規性・準備 状況等を含 む)	<p>地域連携の一環として継続している大牟田市民大学講座ゼミの受講者有志による菅原道真公の漢詩講読会（月 1 回）が前回の注釈本出版後もさらに継続している。その後の更なる成果を踏まえ、焼山の公にした論文の集大成とともに書籍としての出版を年度末までに遂行したい。</p> <p>前回の 2 冊の公刊同様、書籍として公にすることにより、この書が大牟田市のみならず近隣の図書館・公共施設・及び全国の主要図書館に寄贈することにより、「菅原道真の漢詩研究」において研究者・学会にその成果が寄与できることに止まらず、この有明高専の地域貢献の一端を全国に発信できる証になるものと確信している。そしてその成果が学会のみならず地域にも還元できることを強く期している。</p>		
	【研究報告】		
研究経費 執行内容報告 研究成果 報告	<p>上記の研究計画に地場産業振興会より 10 万円の支援を頂き、以下のような実践をさせて頂いた。</p> <p>【支援金 執行概要】 福岡学術出版社より 100 冊自費出版で発行した。（2016 年 2 月 25 日）その出版費用の一部として下記の執行額内訳のように充当させて頂いた。</p> <p>【研究成果 報告】 27 年度は、昨年、熊本大学に提出し、博士号が認可された博士論文を書籍にすべく、27 年度末の完成を目指して、論文原稿の校正を進める事を実践した。その中に平成 20 年度に校長裁量経費を頂き、学習成果を一冊の書籍として公にすることが出来た『菅家後集注釈』「叙意一百韻」（その書は大牟田市のみならず近隣の図書館・公共施設に寄贈し、有明高専の地域貢献の一端を証することが出来た）を再度全面改訂して全文、大牟田市民大学ゼミの学習成果として採録するために、ゼミ有志と月 1～3 回のペースで半年掛かりで校正作業を進めた。科研費の採択から漏れた為、自費出版になった。総出版費は消費税込みで 100 万円となった。100 部の発行部数分の出版費用の 10 冊分として充当させて頂いた。</p> <p>前回同様 総会等でこの出版物の著述内容の概要の報告の機会があれば、その折に現在取り組んでいる研究テーマと研究の現状をあわせてお話しさせていただき。今後の更なるご支援の理解を頂ければ有難い。</p>		

<p>予想される成果と今後の発展性およびその活用方法について</p>	<p>地域連携・生涯学習の場の地域への提供を願う大牟田市の要請に応じて始めた「大牟田市民大学講座」が地域に定着し、それが新たに「市民大学ゼミ」としてより高度の市民の学習の機会も生まれた。それが10年間に亘り月1回のペースで継続出来ている。</p> <p>この成果を公にすることにより大牟田市民に限らず近隣地域の学びの場を求めている住人に大きな刺激や励みを供するものとなると確信している。この取り組みは、有明高専の地域貢献の微々たるものに過ぎないかもしれないが、こうした小さな芽を萌芽させる事に大きな意味があると思っている。また、前回の刊行書籍は学会誌の中でも取り上げられ学術的に大きな評価を受けた。一方で、今の会員の高齢化が進み、おそらく今後の書籍の刊行が限られるものとなるのではないかという不安もある。</p> <p>そうした状況下で、今回の『菅原道真研究～[菅家後集]所載の作品論と編纂事情考（注釈を通して）～』（〔熊本大学提出 博士論文〕の出版が実現したことは今までの労が多少とも報われた気がする。</p> <p>また単なる市民の生涯学習の場の提供だけでなく、本格的な学術研究が大牟田という一地方で、高等教育機関と地域住民が真摯に関わっていることその証左としてこの出版物の価値があると思う。内外の研究者からも、この点を評価する声が多く聞かれた。</p>
<p>執行 期間</p>	<p>平成27年09月～平成28年3月末日</p>
<p>支援金額</p>	<p>100千円</p>
<p>執行額 内訳</p>	<p>1 備品費</p> <p>2 消耗品費 献本用図書（10冊分）〔大牟田市・荒尾市・両市近辺の図書館・大学等〕 1冊 10千円×10</p> <p>3 その他</p>